

雨の日は裸になりたい女の子応援マガジン

あんぶれ裸

Vol.5

成年向け
For Adult Only

聞かせて！

みんなの
あんぶれ裸 "初"体験談♡

カフェとわたしとあんぶれ裸♡
窓辺のランウェイへようこそ♡

一冊丸ごと

初めて♡あんぶれ裸
大特集

あふれ裸



聞かせて！
みんなの

あんぶれ裸 "初"体験談♡



初めてお外で全裸になった時、
何人だった？



彼氏のリクエストで…

付き合ってる部活の先輩の彼に、どんな服着て欲しい？って聞いたら、「雨の日にやってみてよ」って言われたのがきっかけでした。学校の下駄箱ですっぽんぽんになって、彼と相合傘で 最初は恥ずかしかったけど、裸で歩外に出た時の興奮は、今でも忘れられません…♡良く見えるように、アンダーヘアを彼に剃ってもらいました。

十代 女性 高校生

畑の様子を見に来たおじいさんに

私の住んでる地域は田舎の山奥で、おしゃれなんて縁遠い場所なんですけど、私もおしゃれになりたいくて、家族の目を盗んで全裸でお散歩を決行！いつもの田舎道がとても新鮮なものでした。ホントに遮るものが無いので、ドキドキしながらお散歩していると、雨で畑を心配した近所のおじいさんと遭遇… 雨宿りにと近所の納屋に連れていかれ…ファッションだと何度説明しても理解してくれません！

でも昔の夜這いの風習や裸のお祭りの話がもの凄くエッチで…「こうやるんだ」と色々教わりました。今では雨の日におじいちゃんたちと出会うのも楽しみの一つです♡

十代 女性 学生

ひとり旅の旅先で

ずっと興味があったけど、勇気が出なかったあんぶれ裸ファッション。ゲストハウスの宿泊者が参加する「大自然を裸で体験するワークショップ」を開催していたので、参加しました。初めて顔を合わせる男女が、小雨が降る高原を裸でお散歩。あの開放感とドキドキ感は、今でも忘れられません！夜も初体験の連続で…全員で箱いっぱいコンドームを使い切りました…♡

二十代 女性 大学生

お姉さんと裸のお散歩

同じマンションで、小さい頃から仲良しだったのお隣のお姉さん。ある大雨の日、僕が一人でお留守番していると…「お散歩いかない？」と、お姉さんはすっぽんぽんで、ぼくを誘いにきました。「キミも脱いじゃおうよ♡」とお姉さんに脱がされると、二人相合傘の全裸お散歩。近所の公園を目指しました。隣にいるお姉さんの体がとても熱くて…。誰も居ない道だったけどドキドキしました。公園に着くと、お姉さんが「今日の事はうちの人にはナイショね♡」と言いながら、僕のおちんちんをバクッとくわえてしまいました。その後もお姉さんと色んなお勉強をして、あんぶれ裸アプリに紳士傘として登録しています。

十代 男性 小学生

初めてお外で全裸になった時、
Hなコトした？



ママ友に誘われて

近所の公園で知り合ったママ友たちに誘われて初めてあんぶれ裸お散歩を体験しました。そのまま連れて行ってもらったマッサージで、人生で一番深いオーガズムも体験し、今でもストレス解消のために通ってます。夫にもキレイになったって♪夫にはナイショの雨の日だけのお楽しみです♡

二十代 女性 専業主婦

ヌードデッサンのモデルに

憧れの先輩が所属してる美術部で、ヌードデッサンのモデルになるよう頼まれました。断りたかったのに、その日はちょうど大雨で、股間がムズムズして…断れずに、大勢の部員さんに囲まれながら、ヌードモデル初体験…！。後で見せてもらって、こんな大胆なポーズしてたんだ…って、ドキドキしました♡作品のモデルも引き受けた先輩の作品が賞を取り、私のヌードが全国に向けて展示されることになり…顔から火が出そうほど恥ずかしいのと同じく、人前で裸になる気持ちよさにも気づいてしまいました…♡

十代 女性 高校生

美肌 研究所

プリントシール機の中で

高校の時、ゲリラ豪雨から逃れて駆け込んだ、ゲームセンター。そこにあったプリ機の中で裸になったのが最初でした。最初はノリで脱ぎ始めたんですけど、最終的に皆全裸に… みんなおまんこびちゃびちゃでのプリが今でも残ってます（笑 女の子同士だと結構大胆になっちゃって、そのまま折りたたみ傘で遊びに行きました。

十代 女性 大学生

『恥ずかしい』の ドキドキを大切に

たまに「平然としてるけど恥ずかしいくないの？」って聞かれるんですけど… 恥ずかしいです!! でも、この新鮮なドキドキが大切なんです。常に新鮮な気持ちでいられるファッションってすくなくないですか？

女の子ってドキドキするとキレイになるんです。当たり前じゃない当たり前を受け入れた日、毎日が非日常になるあんな裸。勇気が出ないキミも、チャレンジしてみて♡



高校時代に、ノリでとったプリがきっかけで、あんな裸ファッションにはまった仲良し三人組。大学生になった今では3人であんな裸モデルとして活躍中。総集編で確認してねっ♡

裸を見られたらいいって、

女の子の本能だと思っんです

ボク、男兄弟の末っ子で、唯一の女の子なんです。髪も短いし自分呼びもボクなんで…

あんまり女の子扱いされた事もないし、自分が女の子って事もあんまり意識とかしてこなかったんです。

でも、胸が膨らみ始めたのと同じ頃から、雨の日になると裸でお外を歩いてみたというキモチが溢れてくるようになったんです。でもお家でそんな事言えないし…

お家で兄たちの前ですっぱんぽんになっても、全然満たされなくて…

そんな時たまたま目にした雑誌があんぶ裸でした。

「こんなファッションがあるんだ…」

ってドキドキして、感想を読者ハガキで送ったら、

出てみない？

と、お誘いがありました。

当日、記者さんの前でスカートを脱ぎ、ブラウスのボタンを全て外しました。

念願の、お外ですっぱんぽんです。

男の人の前で…しかもお外で裸になるのがこんなにドキドキするなんて…

「ボクの身体…男子みたいじゃないですか…？」

胸もないし…

今まで誰にも言えなかった悩みを打ち明けてみます。

でも…

記者さんはそんなことないって。

ボクの身体をキレイって言ってくれて…

写真もいっぱい撮ってもらいました。

指でめいっぱいアソコを広げた写真も…

裸を見られて嬉しいって思った瞬間、ボクは女の子なんだって自覚が持てたんです♥

カフェとわたしと あんぶれ裸♡ 窓辺のランウェイへようこそ♡

都内ならどこにでもある、カフェのチェーン店。そんな日常風景が、ちょっとしたあんぶれ裸チャレンジスポットに早変わり♡

道路に面したずらっと並ぶカウンター席。外からよく見える前面ガラス張りでおしゃれな店内がよく見えます。

店内は雨宿りのためか…特にカウンター席はほぼ満席状態。

この前を裸で歩くのが、ランウェイみたいだと、あんぶれ裸女子の間でひそかなブームになっています。

雨の中、誰も居ない道を「人でお散歩していると、この道を一人で歩いて、あの場所まで行ってみたいわ。」

「指さした先に何かあるんですか…?」

「それは行ってみてのお楽しみという事で、」

「い…いよいよ一人で歩くんですね…」

あんぶれ裸初体験のボクとしては、1人になるだけでドキドキです…

勇気を振り絞り、1人で歩いていくと…目の前に

満員のカフェが…しかも記者さんが指定した場所はカウンター席の中央あたり…

「大丈夫、落ち着いて、せっかくオシャレしてるんだから、見てもらわないと、さっきやったみたいで、自分で聞いてもらって。」

「…ですか…」

親指をふとももの付け根に立て、

くはあ…♡

外に引張ると、ひんやりとした外気が割れ目の肉側を通り抜け、視線が突き刺さるのを感じます。

素肌を流れる雨粒は、

神様がくれたドレス♡

記者のお兄さんはボクが知らない、ボクの身体のことをよく知っていて。

記者さんに身体を触られるたび、ボクの中に『女の子スイッチ』が次々と入っていくのを感じます。

特に割れ目の先端の突起は、触られるたびにビリビリと電気が走るような快感が股間から全身に流れます。クリトリスっていうらしいです。

自分で触った事ないの!? と驚かれました。

クリイキは女の子の特権だからと、触り方まで教えてくれました。

最初は皮の上から。つまんで、はじいて…転がして…♡

ガラスに反射する全裸の自分の姿は、普段のボクとはまるで違う…女の子の顔をしていました。

全身に滴った雨水が、街の光を浴びてキラキラ輝くんです。

まるでこのランウェイを歩くために、神様がくれたドレスのよう…♡
昔絵本で見た、おとぎ話のお姫様みたいな気分♡

記者さんは—無理に女の子になろうとしなくていいって言うてくれて嬉しかったけど…

ボクもう、女の子しか知らないキモチイイコト、沢山知っちゃったんです♡

それなら と、記者さんはボクの片足を抱え上げました
雨つぶがびちゃびちゃに滴ったおまんこが、ばっくりとみんなの前に晒されます。

丸見えます。

周囲の舐め回すような視線が女の子の縦すじにからみつきます。

「ひいあ…♡♡♡ あ…♡♡ あ…♡♡」

触ってないのに、クリトリスから電流が走ったように感じました…

でも、これで終わりませんでした。
もっと教えてあげたい。と記者さん。

ズボンから取り出したソレは：
お家で見慣れたおちんちん…え!!

なんでそんな反り返ってるの!!
兄貴たちのもあなるの!!

キミ、ホントかわいいね
と笑われてしまいました。

マジで君の好きかも。
もっと気持ちいいコト教えてあげたい。

記者さんから突然の告白!!?
こんな大勢の前で…しかも可愛いつて…

え…? え…?

はじめて言われることばかりで戸惑っている…

おちんちんの先っぽに股間の雨水を塗りつけたと
思ったら…

先っぽが入って来て、おまんこの浅い所をトント
ンしはじめました。

「♡♡♡♡♡!!」

—またまた、みんなの前でもっと女の子にしてあ
げるからね♡

色んな初体験を経験した二日でした…♡

今日も
自然体で。

無衣優品

first time umbrella

はじめてのあんぶれ裸

雨の日だから出来る プチ露出

おしゃれをする勇気が出ない女の子たちを丸裸にする人気企画「はじめてあんぶれ裸」に今回応募してくれたのは、最近本誌の読者になったという、つゆ莉ちゃん。今年の春から名門の●●女学園に通う、高校一年生だ。

待ち合わせ場所は、「●●女学の最寄り駅」の一つ隣の駅の改札前。大きなオフィスビルと、数多く私立名門校が集中する人口密度の高いエリアだが、近くには大きな神社もあり、路地を一本はれば、大通りの喧騒と隔離される、不思議なエリアだ。

「は…はじめて…!」記者の方ですよね?

約束時間の前にもかかわらず、既に待ち合わせ場所に到着していたのは三鴨つゆ莉ちゃん。15歳。深い紺色のセーラー服の制服姿に身を包み、膝丈のスカートが清楚な印象。二つに結んだ髪型が幼い印象を与えるが、雨に濡れた黒髪には隠せない、女性の艶めきが輝いている。

セーラー服の胸元に透けて浮かぶピンク色の突起も、もう自分は子供ではないと主張している。

今から自分の手で目の前のこの子を、大人のオシャレに目覚めさせてあげるのだと思うと、胸が高鳴る。

事前をお願いしてあるのは、

「お気に入りの傘を持つてくること」と「下着を上下脱いでくること」。

ブラジャー外してきてくれたんだねと胸のぼちちを指摘すると、顔を真っ赤にして

「…はい…♡ 学校のトイレで脱いで…鞆に入れました」と、恥ずかしそうにはにかむ。

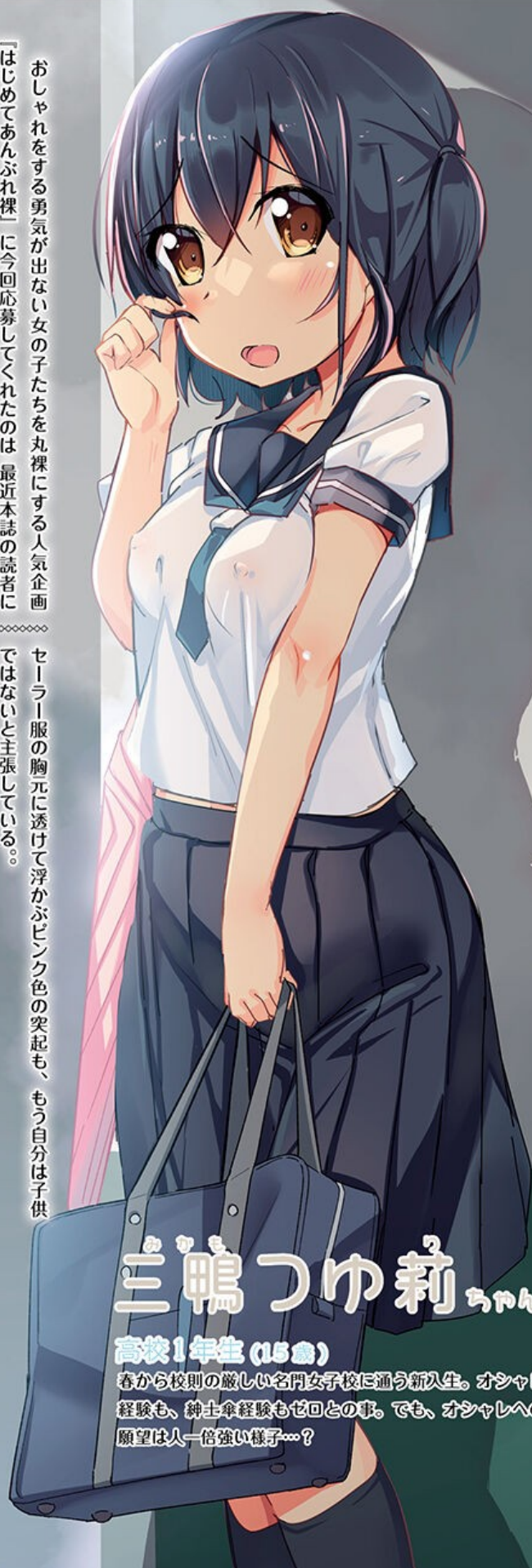
「実は…ブラジャーは脱いで来たんですけど…」

緊張した面持ちのつゆ莉ちゃん。何か言い出しづらい事がある様子だ。

三鴨つゆ莉ちゃん

高校1年生(15歳)

春から校則の厳しい名門女子校に通う新入生。オシャレ経験も、紳士傘経験もゼロとの事。でも、オシャレへの願望は人一倍強い様子…?





名門校の厳しい校則の中で…

きちんと指令を実行出来たのか、確認！
下着を脱いでくる約束は実行出来たのかな？
この時点でふとももの内側に輝く液体が見える子も珍しくない中、○○ちゃんは特に濡れた様子はないみたい。

「その…どうしても勇気が出なくて…パンツ脱いで来れませんでした…」
と言いつつ、大胆にスカートをたくしあげ、白い綿のショーツをはいたお尻が露わになる。
今は人通りがまばらとはいえ、ここは改札も見えない駅の前…！

「私の学校、下着の色や素材まで指定があって、定期的にチェックされるんです…」
最近話題のブラック校則というやつだろうか。先生たちの前で制服をたくしあげ、ブラとショーツをチェックされるので慣れているのだとか。

「普段はあんなに嫌なのに…お兄さんに命令されると…」
逆らえない感じがする？

「そういうのじゃなくて…恥ずかしいのにちょっと…嬉しい…みたいな…」
「私、変ですか…!？」

雨の影響かもね と伝えると少し安心した様子。でもそれも一瞬。

「そ…そんなにじつと見るんですか…!？」
飾り気の少ないシンプルなショーツ。
視てもらえず触ってもらえず、
切なそうに濡れた液体は股間の中央に大きなシミを作っている。



「どうですか…？」

服の上から想像してたより、遥かに大きな乳房にあも
わず生唾を飲む。

「な…何か言ってくださいっ…！ 恥ずかしいですっ！」

―着せするタイプなんだね。

「やっぱり、へ…変ですか…？ 私のぉ…はい…」

―そんなこと無いよ。

友達より大きい事を気にしているのだろうか。思春期
にはよくある悩みだが、自分の長所に気づかず隠して
しまう子は多い。

―こんなキレイなおっぱい、もっと視てもらわないと
勿体ないね。

「キレイなんて…えへへ…」

はにかみながら寄せた腕が、シャッターチャンスを生む。

―写真撮るから、うごかないで。

「じゃ…写真…ですか…？」

―大丈夫？ 全国誌に載ることになるけど。友達とか家
族にみられちゃうかもしれないけど。

「恥ずかしいけど…今まで自撮りしても見てもらっ勇氣
なかったから…ドキドキです…！」

家族の目を盗みながら撮った自撮り露出写真が、実は
大量にあるのとか。やはり視てもらいたい願望が強
いようだ。

―でもこれは露出行為じゃなくて、ファッションだか
らね？

「はいっ…！ おしゃれになれるように…頑張ります…！」

すぐにまとまった雨が降る気配がないので、ひとまず近くのカフェ
に入ることに。

大きな傘の付いたテラス席が、おんぶ裸女子に人気のカフェだ。

オフィスビルの一角にありながらも、隠れ家的な場所にあるのも、彼
女たちに人気の理由の一つだろう。

「わあ…」

徐々に強まる雨足の中、テラス席の女の子たちが次々と服を脱いで裸
になっていくのを、顔を真っ赤にしながら横目に見ている。ちゃん。
ちらほらと近所の学校の子がいるみたいだけど、つゆ莉ちゃんと同じ
学校の制服は見当たらない。厳しい校風が、おしゃれする事への二の
足を踏ませるのかもしれない。

―ここなら皆脱いでるし、つゆ莉ちゃんも上着…

「は、はい…！ どうですか…？」

ポロンッ と音を立てこぼれ落ちるように、丰满な乳房が、湿った外
気の下に露わになる。



勇気が出るサブリを試してみよう♪

彼女の隣の席に移動し、肩を抱き寄せ恋人の様に密着して座る。乳首から一番遠い乳房の下側を、くすぐるようにをゆくりと撫でまわす。

「くふっ…んっ…♡」

上着が落ちてこないようにクリップで留めて、スカートも脱ぎ、いつでも出られる格好になってもらった。ショーツは本人の希望で、はいたままでという事になった。多分途中で脱ぎたくなるけど、本人の希望を尊重した。

つゆ莉ちゃんが勇気を出す最後のお手伝い。ポケットからとある錠剤を取り出す。

「勇気が出るサブリ…ですか…？」
「いっしょに試してみよう。」

睡眠薬を盛られて無理やりホテルに…なんて嫌な事件もあるので、当然といえば当然の反応。しかし、オシヤレは自分の意思でするもの。

効果はちょっとした催淫作用と利尿作用。

「…これ飲んだら、もっと…気持ち良くなれますか…？」

開封したサブリを、舌の上のにせ、

つゆ莉ちゃんの唇を塞ぎながら
ややがら強引につゆ莉ちゃんの口を塞ぎながら、たわわな乳房を持ち上げるように刺激する。

「んっ…♡ あん…♡」

物欲しそうに尖った先端を避けながら、その周囲を回すように乳房を刺激しつつ、サブリと唾液をキスで送り込む。
やはりちよっと抵抗があるのか、まだ飲み込めてない様子。
深めのキスで口と鼻を覆いながら、乳首を強めに捻る。

「ひんっ♡」

突然の刺激に大きく身体が跳ねたのと同時に
コクンッ
と錠剤をのみ込む音がした。





つゆ莉ちゃんに「催淫効果のある媚薬サプリ」と言って飲ませた錠剤。ホントはコンビニで買える利尿サプリ。身体のむくみを取るために排尿を促すだけのもの。媚薬の所為だと思いき込むと、人は結構大胆になってしまうもの。



カフェを出て、チャレンジ開始♡

雨足も強くなってきたので、そろそろカフェを出て、あんふれ裸チャレンジを始める事に。

チャレンジ内容は、あらかじめ指定したルートを一人で歩いて、僕の所に帰ってくるだけ。

一胸を張って、堂々と歩いてごらん
「は…はい…!!」

胸を張るとさらけ出した、つゆ莉ちゃんの乳首がツシツと上を向き、歩くリズムに合わせてバストが上下に美しく揺れる。
ひとたび大通りに出れば、人通りは今までの比ではない。



ハッキリと形がわかるほど濡れてしまっているショーツ。あんふれ裸ファッションに慣れたる女子は、こうなるのがわかってるので、最初から全裸なんだとか。

オシャレもファッションも誰かに見てもらうためのモノ。

路地を抜け、角を曲がるといよいよ、つゆ莉ちゃんのチャレンジが始まる。

見送ったお尻が見えなくなると、僕もゴールに指定したベンチまで移動する。

指定したルートは、社会人の人通りが多いオフィス街方面。

働くあんふれ裸女子も少なくはないが、同年代の制服女子が少ないエリアなので、つゆ莉ちゃんが視線が集めるのは間違い無い。

ゴールに指定したエリアはの男子校が近所にある公園。

雨脚も強くなり、街全体が霞もうとも、露わになった彼女の魅力はもう隠せない。

今頃、彼女の子供の頃からの「裸を視られたい……」という願望も、多くの視線の中で叶っている最中かもしれない。

羞恥心がドキドキに変わる
雨の日のだけの、裸のお散歩



first time umbrella



いつものご褒美タイム♥

しばらくして、待ち合わせ場所に戻って来たつゆ莉ちゃん。

出る前はシミくらいだった綿のショーツが、びしょ濡れでアソコの色や形が分かるほどピッタリと張り付き、もはや裸と大差がない。

何もはきたがらないあんぶ裸女子たちの気持ちがわかる。

ショーツから溢れた体液が内ももをヌらりと光らせ、歩くとたびに糸を引き、全裸より目を引きそうた。

「その…急におしっこ…途中で我慢できなくなって…」

いい年してお漏らしした事がショックなのかな。

サブリの所為だから、つゆ莉ちゃんの所為じゃないよと頭をなでて安心させる。実際その通りだからしょうがない。

自分の傘を畳み、つゆ莉ちゃんの傘に入って相合傘状態になる。ガクガクと腰を震わせながら崩れ落ちそうになるのを後ろから支える。

「本当に…お外…♥ 歩いちゃいました…♥ 私…っ♥」

トロンとした表情と艶めく肌は、本当に媚薬でも盛られたのかと思うほど興奮している。同じ傘の中で、つゆ莉ちゃんの甘いメスの香りに耐えられるオスは、居ないと思う。

「いったい視てもらえた？」

「ずっと…傘で、顔隠してたんですけど…ちょっと前見たら…」前にいた全員と視線が合ったそうた。

「変ですよ…!? 目が合った瞬間…震えて…こんな事がキモチイと思っちゃう私…変態さんですよ…!?」

「雨の日なら普通だから大丈夫だよ」

ショーツに突っ込んだ手は、文字通り滑るように割れ目の奥まで辿り着く。既に充血して包皮から顔を出した肉まめを指で転がす。

「あっ…あっ…♥ だめっ♥」

頑張った女の子へのご褒美タイム。切なそうにヒクヒクと震える割れ目とさらなる刺激と快楽を求めているようなので小刻みにはじく。

傘を持っているため、自由に動けない女の子を思うがままに出来るのも、あんぶ裸相合傘の魅力の一つ。

「感度いいね。毎日勉強に手つかないくらいオナニーしてない？」

「そ…そんなこと…これは…さっき飲んだ媚薬の所為…んっ♥」

そろそろ種明かししてあげようかな」





媚薬効果?で、初めてのセックスで自ら跨り、
大胆に腰を振るつり莉ちゃん。
後ろで人がみていようがお構いなし♪

はじめてだけど、コレが好きです♡

サブリの催淫効果と裸のお散歩で
びちょびちょになった私のおまんこ
は、もう我慢とか知らない感じ…。
雨の日にどうしようもなくエッチ
したくなるのって、女の子あるある
なんですって。

でも…わたし始めてだし…どうして
いいからなくて…

記者さんの身体に全身をこすりつけ
ておねだりしたら、ちゃんと「言っ
てらん」って意地悪するの…

「せ…セックスしたいです…」

もおおおっ！ 聞こえないふり…し
ないで…

知ってる限りのエッチな単語を、
勇気を振り絞って言い直します。

「き…記者さんの…お…おまんこで
…つゆ莉に初めてのセックス教えて下
さい…♡」

記者さんがズボンを脱ぐと、振り返っ
たおまんこが顔を出しました。

こっそりスマホで調べたことあった
から知ってたけど…本物ってこんな
大きいの…!?

でも…怖いって思ったのと同時に可
愛いって気持ちもあって。おまんこ
のムズムズがさらに増した気がしま
した。これが母性？

相合傘のまま、記者さんに跨るよ

うに公園備え付けのベンチに座りま
した。

記者さんも一緒に裸になっけて、

相合傘って不思議ですよ。お外な
のに、記者さんと二人だけのプライ
ベート空間。なんだかいけないヒミツ
を共有してる感じ♡

だから、こんな恥ずかしすぎる格好
だって出来ちゃうのかも…♡

ガニ股でおまんこ丸見えだし…記者
さんの目の前におっぱい差し出して
るみたいだし…

しばらく見つめあったら、自然と同
じタイミングで唇を求めて…

「ん…ん…」

やり方なんか知らないけど、夢中で
舌をからめました。

お尻を支えられながら、自分からゆっ
くりと腰を落とし、初めてのおまん
ちんを受け入れていく。

何かを破った感じがちよっと痛かっ
たけど、自分でも驚くほどすんなり
と咥え込んでしまいました…

上と下、両方のお口でつながったま
ま身体も心も一つに融け合う感じ…
これがセックスなんだ…♡

—大胆だね。つゆ莉ちゃん。初めて
とは思えない。

「お…お兄さんに飲まれた媚薬の所
為です…」

—実はあれ媚薬じゃなくて、コンピ
ニでも買える利尿作用のあるサブリ
だよ。

「…え？ 媚薬効果っていうのは…」

—ウソ♡

「じゃあ…このえっちな気持ちは…」

もう腰が自分で勝手に動いて味わっ
たことのない快感がお腹の中を

私の中から自然に沸いた

「願望…♡」

—こも沢山の人に視られたいって言っ
てたもんね。

お兄さんはおっぱい押し込み、大き
くてコンプレックスだった乳首をコ
リコリと舌や指でころがします。

—今日、初めて全裸でお散歩してみ
てどうだった？

「…気持ちよかったです…♡」

今度は記者のお兄さんが動いてくれました。腕を掴まれ、立ったまま後ろから激しく突かれる姿勢は、周りがよく見えます。顔が見えないように、傘で必死に隠していると

『もしかして…同じクラスの三鴨さん…?』

『ふえ…!? 袖雪さん…!?』

セックス中に話しかけられるなんて、人生で何回あるんだろ…?

「つゆ莉ちゃんの学校のお友達？」

私の目の前にいたのは同じクラスの雪袖のどかさん。お嬢様校の中でも、お家が有名な資産家の、ホントのお嬢様。小柄で清楚で可愛くて

…別世界の人間だと思っていました。今日までは。

『三鴨さんも、あんぶれ裸女子だったんですね…!』

『わ…私は…今日初めて…袖雪さんは?』

『この公園、男子校が近くて…人気スボットなんです!』

学校から駅も離れますから。と舌をべろっと出してはにかむ。

『素敵な紳士…! ああ…このまま見てもよろしいですか?』

「もちろん。よく見てあげて。」

『なんでお兄さんが…あつ♡あつ♡そこダメっ…! だめえ…!』

『すい…初めて…こんな大きな紳士をばっちり眺めたいやうなんだ♡』

『三鴨さんの胸肉に当たり入ったり…よく見えますよ♡』

『あんっ…♡ 恥ずかしい実況…しないでっ…!!』

袖雪のどかちゃん

高校1年生 (15歳)

つゆ莉ちゃんのクラスメイト。おうちが資産家の、ホシモノのお嬢様。あんぶれ裸ファッションは慣れた様子で、堂々とした振る舞い。クラスで共通の趣味の子を見つけて嬉しい様子。

『三鴨さんの乳房…大きくてキレイでうらやましいです。雨の日は歩くたびに殿方の視線を独り占めですね♡』

『袖雪さんのほうが…可愛いし…細くて引き締まってキレイだよお…!』

『ふふっ、あのどかちゃんの下のお胸で…呼んでもらえませんか…?』

『じゃ…わたしも…つゆ莉って…あつ…♡もう…ダメ…限界…ひぎっ♡♡♡♡♡』

お兄さんの大きな先っぽが膨らんだ気がした瞬間、ゴリユツと子宮口をこじ開けるように押し込まれるベニス。お腹から幸せな快楽が電気のように全身に走り、ガクガクと震えながらくすれ落ちます。

『初イキおめでと…♡います♡ つゆ莉さん♡』

新しいお友達と新しい体験をした、これが私のあんぶれ裸デビューでした♡

あんぶれ裸

Vol.5

2022



雨の日をじっくり過ごす
女の子の先取りオムニバス♡

あんぶれ裸って何？

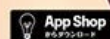
「最近雨の日になると欲求不満で身体がムズムズする。ムラムラする」って事ありませんか？ 雨に濡れてないはずの下着がびっちょり濡れてたり、何となく始めたオナニーがやめられなくなったり…それ、貴女だけじゃないんです。最近ひそかなブームになっているのが「あんぶれ裸」と女の子たちから呼ばれているファッションスタイル。雨の日を全裸でおしゃれに過ごすことで、欲求不満を解消しながら服が濡れるのを防ぐという、一粒で二度おいしいファッション。時々素敵な紳士衆とも出会えちゃう事も。でも、お外で全裸になるのは誰だって最初は恥ずかしいもの。そんな全裸になりたい女の子のための応援マガジンあんぶれ裸。



雨の日がもっと、
好きになるアプリ

あんぶれ裸 App に登
録しよう！

- ・天気予報をお知らせ。
- ・写真投稿で皆と雨の日露出の思い出を共有
- ・紳士衆承認＆検索マッチング



[同人誌]

DLsite 版
© くらわさび 2022
※ 18 歳未満の購読を禁止します。また、ネット等へのアップロードもご遠慮ください。
本書の内容は全てフィクションです。
本書によって生じたと推定される不利益・トラブル等に本書発行人は一切責任を負うものではありません。





美肌 研究所



































